

「七月十七日」
師のおもわ
想ひ得がたくなり行くか。
眞の眉 見おほえなくに
（「春のことづれ」）
釈 遥空

大学生の基本のき

#SNSトラブルと法律

—その使い方、本当に大丈夫?—



ツイッターやインスタグラムなどのSNSを介し、大学生が犯罪に巻き込まれるトラブルが増えている。コロナ禍で、リアルな場でのコミュニケーションが減ったことも一因のようだ。本来、コミュニケーションツールであるSNSは便利で楽しいものはず。しかし、軽い気持ちで、「バズりたい」という気持ちからの投稿が思わぬ炎上を生み、犯罪の加害者になってしまうケースがある。

一方で、日常の様子を画像投稿し、周囲の景色から住所を特定され、ストーカー被害に遭う事件も起きている。被害に遭うと長期間、心的外傷後ストレス障害(PTSD)に苦しむなど、負う傷は深い。

また、「オレオレ詐欺」や「還付金詐欺」といった特殊詐欺で、大学生が逮捕される事件も全国的に相次ぐ。お金をだまし取る相手から現金を直接受け取ったり、ATMで引き出したりする「受け子」という役割が多い。こうした「闇バイト」の多くがSNS上で勧誘されている。詐欺容疑などで逮捕、起訴され、法廷で有罪判決を受けると学生生活や就職だけではなく、その後の人生にも大きな影響が出る。トラブルに巻き込まれないためには、具体的なトラブルを知り、自衛策をとることだ。特集では国学院大学の院友(卒業生)で上尾あおぞら法律事務所(埼玉県上尾市)の川村正衛弁護士(平26卒・122期法)に実例と防止方法を聞いた。

川村弁護士は「周囲の友人・知人しか見ていないだろう」という軽い気持ちでSNSを利用している人が多いが、実際は不特定多数の人の目に触れていると考えて」と警鐘を鳴らす。ネットという閉鎖的な空間で行われているため、学生がトラブルに巻き込まれていることに保護者も気づきにくいという。

4・5面には、トラブル事例の詳細や、相談窓口も掲載した。夏休みに入る前に身近なSNSトラブルについて知ってほしい。

4・5面に関連記事

みはるかすもの

東京・上野動物園では6月、ジャイアントパンダの赤ちゃん2頭が誕生した。同園から伝わるその成長ぶりに注目が集まる。海を隔てた豪州では、希少動物をめぐって心配な話題がある。コアラを「絶滅危惧種」に引き上げる検討が始まるという。豪州では、2年前に起きた大規模な森林火災などで、ニューサウスウェールズ州のコアラの約3割が死んだ。大規模な干魃が引き起こした森林火災は野生生物だけでなく、肉牛の餌となる牧草の生育も阻害し、2年が経った今、その影響は食肉の価格の高騰となつて私たちの食卓に及んでいる。異常気象の影響は世界各地で広がり、ブラジル

では干魃によって、今年のトウモロコシの生産量が減るとの見方がある。北米地域では熱波が発生。49・6度を記録したカナダ西部の州では700件を超える突然死が報告された。熱波は山火事を引き起こし、道路がひび割れ、電線を溶かすなど生活インフラに打撃も与えている。国内では毎年のように大雨による災害が相次ぎ、今年も静岡県熱海市の土石流をはじめ各地で被害が発生している。世界が多くの課題に直面する中、東京五輪・パラリンピックが始まる。コロナ禍の大会に賛否両論はあるが、万里一空を胸に努力を重ねてきた選手たちには等しく応援の拍手を送りたい。同時にスポーツの祭典が、諸外国の友情、独自の文化、人々の営みに思いを寄せる機会になることを祈りたい。選手たちの胸には、母国への誇りがあるのだから。

新型コロナワクチン 職域接種 開始へ

国学院大学は7月26日から、新型コロナウイルスワクチンの職域接種(大学拠点接種)を開始する。本学渋谷キャンパスを会場とし、1回目を26日から30日、2回目を8月23日から27日に実施する。接種にはモデルナ社製のワクチンが使用される。接種対象は▽本学学部生、大学院生、専攻科生、別科生▽専任教員▽常勤職員▽兼任講師▽本学のキャンパス運営に関わる協力会社スタッフなど。申し込み者は本学で必ず2回の接種を受けなければならない。予約の受け付けは、7月20日までで、学修支援システム「KISSMAPYII」や大学ホームページを通じて告知を行った。

運営責任者は「接種はあくまで任意で、強制するものではない。家族と相談して判断を」と呼びかけた。

後期授業は9月20日(祝・月)から

「コロナ収束」「幸せな日々を」「短冊に願い乗せ」
渋谷川で七夕まつり



3面に関連記事

新型コロナ

陽性者の4割が感染経路不明 自分や周囲を守る行動を

陽性が判明した本学学生の4割強は感染経路が不明だ。「新型コロナウイルス感染症は感染して症状がある人と無症状の人がいる。無症状者でも発症2日前から発症後1週間くらいはウイルスを排出している。悪意はなくても誰しも日常生活で感染を広げている可能性があるし、知らず知らずのうちに感染する可能性

がある」
校医の三浦龍志医師は全体の4割強が感染経路不明であることを「自粛疲れ」や「慣れ」による気の緩みがないよう、感染対策の徹底が「引き続き必要」と警鐘を鳴らす。

「これまでクラスターの発生を回避できたのは、徹底した対策ができたからだ。体育館の中には、密集、密接、密着が避けられないスポーツがある。感染力が強い変異ウイルスは一度侵入を許すと一気に広がってしまう。引き続き基本的な対策の徹底が必要だ」

「ウイルスとの共存はこれから続くか
「免疫がないと大規模な感染拡大が起きてしまう可能性がある。10〜20代の人でも重症化し、亡くなるケースがあ

る。感染者の中には肺に後遺症が残って、息切れで動くのが大変だというケースが報告されている。ワクチン接種で人口の4〜5割が免疫をもち、集団免疫で感染から守られる効果が期待できる。さらに治療薬ができれば、インフルエンザと同等に扱えるだろう」

「現在の流行の主体は20〜30代だ。接種しない自由もあるが、感染機会が多い年代にとってワクチン接種は、自分や周囲の人を守ることに繋が

る。接種後1週間程度は発熱や頭痛、筋肉痛に注意が必要だが、ワクチンの安全性は欧米や日本で確認されている。接種後、約2週間以上90%以上の重症化を防止する効果が確認されている。一方で、感染や重症化のリスクはゼロではない。感染が下火になるまでは、マスク着用、手洗い、3密回避など自分や周囲を守る行動を続けてほしい」

「SNSでは信頼できない情報もある。厚生労働省などの公的機関、医療機関、報道機関が発信する公正中立な情報を確認してほしい」

「SNSでは信頼できない情報もある。厚生労働省などの公的機関、医療機関、報道機関が発信する公正中立な情報を確認してほしい」

新型コロナウィルスの感染が国内初確認から1年半近くになる。国学院大学の学生・教職員らでは7月18日現在、117人の感染が確認されている。7月に入ってラグビーフットボール部内で30人超のクラスター（感染者集団）が発生し、緊張感が高まっている。

感染ルート別本学学生陽性者比率

(令和3年7月12日現在)



「3密」を避けよう



咳エチケット



経済学部 日本航空と連携し課題解決型授業

経済学部の専門教育科目「ビジネスデザイン」(担当・宮下雄治経済学部教授、辻和洋同助教「特別専任」)では日本航空と連携し、4月から課題解決型授業に取り組んだ。同授業は、未来のビジネスを発想、構築するために必要なスキルとプロセスについて、実践的な課題への取り組みを通じて身につけることを目的としている。今回は、10年後を見据え、同社の強みを生かした異業種とコラボレーションをした新規事業の提案がテーマ。世界中で取り組みが進むSDGs(持続可能な開発目標)の視点も求められた。

学生たちはグループワークを通じて、アイデア検討から事業内容、発展性に至るまで検討を重ねた。6月28日には、学生投票で選ばれた上位6チームによる企画のプレゼンテーション決勝大会を行った。写真。学生たちは、3Dプリンターを活用したワークスペース整備や、空港内でのドローンを活用した視覚障がい者の移動支援など、多彩なアイデアを同社社員の前で発表した。

7月5日の授業では、同社社員による審査結果が発表され、仮想現実(VR)技術を活用した旅行プログラムを提案したチームが優勝し、表彰を受けた。審査に当たった同社社員は「優勝したチームは10年後も成長が見込める分野に注目した点良かった。教育現場へ導入し、修学旅行の事前学習に活用する、過去の歴史を体験できるコンテンツを導入するといった意外性も評価したい。他のチームのアイデアもそれぞれビジネスの種として光るものがあった」と講評した。



夏越の大祓を執行

夏越の大祓が6月30日、渋谷キャンパス神殿前庭で執行された。佐柳正三理事長をはじめ役教職員らが感染症対策のためマスクを着用して参列。知らず知らずのうちに心身に積もる半年間の罪穢れをお祓いした。



グローバル人材の育成へ 2機関と協定締結

国学院大学は留学やインターンシップを通じてグローバル人材の育成を図ろうと、国内の2機関と協定を締結した。2機関の概要と協定の内容は次の通り。

一般財団法人日本スタディ・アブロード・ファンデーション(JSAF)＝同法人による学生の海外派遣プログラムの紹介を受け、多様な留学機会を本学学生に提供する。JSAFは海外の大学や国際教育団体とのパートナーシップを通してプログラムを提供する国際教育団体。本協定は6月21日に締結された。

公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)＝YOKEおよび横浜市内の国際機関・団体でのインターンシップを本学学生に提供する。YOKEは国際交流や国際協力、多文化共生の促進を担う横浜市の外郭団体。本協定は6月21日に締結された。

新任専任教職員紹介

6月1日付で国学院大学に着任した専任教職員のプロフィールを紹介する。丸数字は①略歴②抱負。

研究開発推進機構

◆助教(特別専任)

比企貴之(ひき・たかゆき)

①株式会社山川出版社で編集者として勤務ののち、国学院大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(歴史学)。京都芸術大学非常勤講師などを経て現職。

②専門は日本中世史で、神社の歴史や残された古文書・古記録(史料論)に関心があります。これまで、伊勢神宮を主な対象として研究に取り組んできました。本学では大学の歴史に係る資料や歴史的・学術的に貴重な史料などを所蔵しており、それらを併せ読むことで本学の重厚な歴史を知ることができ、伝統ある本学に着任することの責任を感じつつ、日々の教育・研究活動を実りあるものにしていきたいと思っています。



荒田洋名誉教授 逝去

国学院大学名誉教授の荒田洋氏が6月25日に逝去。89歳。葬儀は既に執り行われた。

荒田氏は昭和7年生まれ。31年東京大学経済学部卒業、33年同大学院社会科学研究所修士課程修了、38年同博士課程単位取得退学。国学院大学経済学部兼任講師を経て40年同専任講師。42年同助教授、51年同教授。平成15年定年退職、名誉教授。在職中は経済学部長や大学院経済学研究科委員長などを歴任した。

専門はロシア(ソ連)経済史。訳編著書に『ガラスノスチー週刊誌「アガニョーク」の証言』(朝日新聞社)、『過渡期経済の研究』(日本評論社)などがある。

「渋谷川七夕まつり」開催

地域連携へキャンパス飛び出す



短冊に願い事を書き、星に届けようという伝統行事の「七夕」。その前日の7月6日、渋谷駅南街区のイベントスペース、渋谷ストリーム稲荷橋広場で国学院大学主催の「渋谷川七夕まつり」(東京2020参画プログラム公認)が、徹底したコロナ感染対策のもとで開かれた。これまでも日本文化を発信する一環として、学生が浴衣を着て過ごす「和装デー」を七夕にあわせて実施してきたが、キャンパスを飛び出し、誰もが参加できる地域イベントとして開催したのは今回が初めて。

コロナ禍で対面授業やサークル活動、地域との交流などが制限されるなか、人が交わることで創出される活力を皆で共有し、地元の活気を取り戻したいとの思いが込められている。併せて東京五輪・パラリンピックに対する応援メッセージを発信する意味合いもある。

会場にはステージとサークルのテントブースが設けられた。

また学生、法人傘下校の生徒、園児、近隣の保育園児らが願い事を書き込んだ短冊が吊るされた笹飾りが並んだ。

ステージでは雅楽演奏、朗読演劇の上演などサークル活動の成果が披露された。会場が夕闇に包まれるなか、全学応援団がパフォーマンスののち、「フレイフレー国大、フレイフレー渋谷」とコロナ禍を吹き飛ばす勢いのエールを送り、七夕まつりを締めくくった。写真左上。この模様は地元コミュニティラジオ「渋谷」で生中継し、地域に熱気を届けた。

事前活動から運営をサポートした経済学部田原ゼミ(田原裕子教授)に所属する千葉彩美さん(経ネ4)は「渋谷は若者の街というイメージがあるが、実は子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が暮らしている。あらゆる層にいかんして参加してもらえれば今後の課題だと感じた」と話していた。

ウガンダ五輪陸上選手団 蓼科寮で事前合宿

東京五輪の陸上競技に出場するウガンダの代表選手やコーチ8人が7月15日までに、同国ホストタウンの長野県立科町での事前合宿のため、町内の国学院大学の厚生施設・蓼科寮に到着した。選手たちは27日までの滞在期間中、新型コロナウイルス感染対策を徹底しつつ、標高約1500mの蓼科寮を拠点に同町内で調整を重ね、大舞台に備える=写真。

立科町と学校法人国学院大学は平成30年に連携協力のための協定を締結。事前合宿の受け入れにあたって同施設を練習拠点とするための覚書を交わしている。

本学では、学生らに募った寄せ書きを贈るなど、コロナ禍で接触が制限される中、選手たちを後押しする。



(立科町提供)

国学院大学附属幼稚園園児ら 渋谷キャンパスを訪問

国学院大学附属幼稚園(東京都杉並区)の園児ら約50人が7月9日、渋谷キャンパスを訪れた。園児たちは到着後、神殿を参拝。その後は、本学博物館を見学し、学生食堂で園児向け特別ランチを味わった。昼食後は、本学学生による雅楽演奏と舞の鑑賞などを行い=写真、最後は大学マスコットキャラクターの「こくびょん」と交流。記念写真の撮影と見送りを受け、園児たちは笑顔で弾ませながらキャンパスを後にした。



子ども支援学科 遠足運営の校外実習を実施

人間開発学部子ども支援学科の1年生が、幼児教育における自然体験や外遊びについて学ぶ専門教育科目「野外活動実習」(担当・青木康太郎同学部准教授)の一環で、こどもの国(横浜市)での校外実習を7月3日、感染対策を講じたうえで行った。

今回の授業では「幼児向け遠足を企画する」というテーマが設けられ、学生たちは事前の授業で企画立案の視点や安全管理、遠足の運営方法などについてグループワークを中心に学修を重ねた。当日は時折雨が降る中、「遠足の事前実地踏査」として、各グループで企画した遠足プログラムの最終確認を実施。学生たちは事前に用意したチェックリストを見ながら、遊具などの園内施設や移動経路、休憩場所などを確認した=写真。



三矢重松

国学院第1期生として明治26(1893)年7月に卒業した三矢重松(1872-1923)は、文部省大臣官房図書課に奉職後、官を辞して教育研究の道に進み、中学教諭を歴任後、32年に上京して嘉納治五郎の運営する亦楽書院、ついで改組した宏文学院で魯迅などの中国人留学生に対する日本語教育に従事した。その後、34年に国学院講師、大正9年9月に教授となった。文法・源氏物語などの講座を担当するとともに商議員として芳賀矢一学長と国学院大学の発展のために尽力している。

国学院国文学会の会長として学会の発展に尽力し、また源氏物語全講義を創設して自ら講師を務めた。東京外国語学校講師・東京高等師範学校教授も兼ねている。その学問は国文学を中心に国語・国文学の多岐にわたったが、卒業論文「源氏物語の価値」で早くも連体形終止法の存在を指摘している。院友の教師の多かつた宏文学院では複合辞まで学べる画期的な『日本語教科書』の編集に協力し、また『国学院雑誌』に連載した「口語の研究」は明治30年代になされた口語文法の体系的な記述の嚆矢であり、『荘内語及語釈』では言語形成地である庄内の方言を記述している。その著者たる『高等日本文法』は近代国文学史上、大槻文彦の『広日本文典』が国文学による文法研究と西洋の言語学と折衷させた文法体系であるのに対して、中世以来の日本の伝統的な「詞」「辞」の概念を踏まえて「独立詞」「付属辞」に二分し、これを名詞・代名詞・動詞・形容詞・副詞・接続詞・感動詞の七詞と助動詞(助助辞)・てにをは(静助辞)の二辞に分類している(静助辞)の二辞に分類している。

なかでも単なる推量とされてきた助動詞「まし」に後に反実仮想の術語をもって称される用法を指摘したことは高く評価されており、また日本語史上、明治期にはほぼ消滅していた「の」「が」の尊卑に言及したことは、その没後に中世語資料が多く紹介されて尊卑の研究の進展を促している。

大正12年7月に病床で「古事記に於ける特殊なる訓法の研究」で本学第1号の文学博士の学位を受けたが、18日、病のため51歳の若さで没した。遺稿は高弟の安田喜代門・静雄兄弟によって『国語の新研究』『国文学の新研究』『文法論と国語学』に纏められている。和歌の遺作も多く、「価なき珠をいだきてしらざりしたとひおぼゆる日の本の人」は『源氏物語』の優れた価値を詠んだ一首である。

文学部教授 諸星美智直

近代国語学史に金字塔 「最後の国学者」三矢重松

学問ノ道

第35回



三矢重松の授業風景(大正5年)

大学生がSNSを介してどんなトラブルに巻き込まれているのか、なぜトラブルに発展するのかその背景を見ていきたい。

代表的なトラブルとしては①金銭②誹謗中傷③個人情報の特定と被害一が挙げられる。①の金銭は仮想通貨などの投資詐欺の被害にあったり、「闇バイト」で特殊詐欺の犯罪に手を染めてしまったりするトラブルだ。②は芸能人など著名人を誹謗中傷し、加害者になるケース。もしくは意図していないのになりすましや、デマ投稿により、全く関係のない事件の加害者として扱われるなど誹謗中傷の被害者となる事案。③は日常の様子を投稿して、画像に映り込んだ風景や文章から住所や行動を特定されてストーカーや空き巣の被害に遭うなどのケースだ。

なぜトラブルに巻き込まれるのか。川村正衡弁護士は「大学生になって、アルバイトなどで交友関係が広がり、入る情報が急激に増えることが影響しているのでは」とみる。コロナ禍で、対面でのコミュニケーションをとることが難しくなり、SNSで交友関係を築く機会が増えていることも関係しているようだ。



誹謗中傷

デマ投稿 被害、躊躇せずに相談を

SNSを介した誹謗中傷トラブルは、発信する側は当初「まさかそんな大きなことにはならないだろう」と思っているケースがほとんどだ。しかし、相手から慰謝料や損害賠償を請求される民事裁判に発展するケースもある。相手の社会的名誉をおとしめたとして、名誉毀損罪に問われる可能性もある。

川村弁護士は「投稿する前に、内容が適切なものかどうかを考えてほしい。投稿後に削除しても拡散してしまう。もし訴えられた場合は弁護士に相談してほしい」と説明する。

また、「バイトテロ」といわれる、アルバイト先の商品や器具などの備品を使ってふざける様子をSNSに投稿して炎上する問題が起きている。川村弁護士は「悪ふざけ自体が論外だが、仲間内でしか見られない設定だから大丈夫という気持ちで投稿しても、誰かにその内容が画像として保存され、拡散する可能性がある」と指摘する。

一方、誹謗中傷の被害に遭うケースもある。勝手に自分の

名前が使われ、思ってもいない発言や不適切な写真を投稿される「なりすまし」被害が起きている。悪質なユーザーに絡まれ、執拗な嫌がらせを受ける被害も報告されている。

悪意ある投稿者を特定するためには、SNSの運営会社へ投稿者のIPアドレスの開示請求を行い、IPアドレスから判明したインターネット接続事業者へ契約者の情報を開示請求することが必要になる。川村弁護士は「インターネットの通信記録には保存期間があり、各社によって異なるが3か月から半年ほど。被害にあったと気付いたら、投稿の画像を保存する、時系列を整理するなどしてすぐに大学や弁護士に相談し、ログが残っているうちに、開示請求する必要がある」と説明する。

このほか、SNSの運営会社に誹謗中傷があったことを通報する方法もある。各社の削除基準を満たすと判断された場合、相手のアカウントを凍結することができる。

個人情報の特定と被害

映え写真 上げる前にチェックして

画像や日常の様子を投稿などで、住所や行動を特定され、ストーカー被害や留守中の空き巣被害にあう恐れもある。スマートフォンのカメラの性能が向上し、高解像度で映ることも影響している。

例えば投稿した画像にマンホールのふたが映り込んでいた場合は注意が必要だ。マンホールのふたは自治体が独自のデザインを採用しているケースがあり、居住地を特定される材料になりうる。また、SNSに投稿された女性の顔写真の瞳に映った景色を手掛かりに、住所を特定した悪質な事件も。「投稿前に、この情報を出したら最悪の場合、どう使われるかを考えてほしい」(川村弁護士)

潜むリスク

正しい情報の見極めを

金銭

高報酬

絶対儲かる に注意

SNSを介した金銭トラブルは多い。コロナ禍で相次いだのが、個人事業主への経済対策である持続化給付金の不正受給だ。詐欺グループに名義貸しをしたり、虚偽の申請をしたりした10~20代の若者が詐欺容疑で書類送検される事件が起きている。また「オレオレ詐欺」や「金融商品詐欺」などを「特殊詐欺」というが、特殊詐欺と認識せずに犯罪に手を染めてしまうこともある。「オレオレ詐欺」などで、お金をだまし取る相手から現金を直接受け取ったり、宅配便などで送られてきた現金の入った荷物を受け取ったりする「受け子」という役目だ。特殊詐欺事件で逮捕される若者の多くが、この「受け子」である。

報道などによると、「ものを運ぶだけのおいしいバイトがある」と誘われ、軽い気持ちで犯罪に加担してしまうケースが多い。川村弁護士は「末端の『受け子』は逮捕される確率が高い。アルバイト感覚でも法的には共犯になる」と強調する。

さらに最近目立つのが、マルチ商法まがいの勧誘被害だ。友人や先輩から「株や仮想通貨の情報商材を買えば絶対に儲かる」とUSBメモリーに入った情報商材を1本50万円程度で売りつけられるというケース。勧誘側は売りつけるたびに元締めから仲介料が入る仕組みで、ねずみ講に近い。「そもそも投資で絶対に儲かるというものはない。『絶対』という言葉は不誠実だと知ってほしい」(川村弁護士)

高報酬限定バイト

ゼットイ儲かる カンタン投資で資産を



その後の人生への影響

資格取得に制限、社会的制裁も

SNSを介したトラブルは、学生時代だけではなく、就職活動やその後の人生にも大きな影響を与える。例えば刑事事件に発展し、裁判で懲役刑が確定する場合はもちろん、略式起訴で罰金刑を受けた場合も「前科」はつく。国家公務員への就職や司法書士、宅地建物取引主任者(宅建)といった国家資格の取得に制限がかかることもある。

また、事件の加害者になり実名報道された場合、まとめサイトがつけられるなど、永遠にネット上に名前が残ってしまう。

一方、被害にあった人は、心身のストレスはもちろん、報復や裁判への不安など大きな傷を負う。

川村弁護士は「トラブルに巻き込まれたら一人で抱え込まずに最寄りの法律事務所などに相談してほしい」と呼び掛ける。

保護者に向けても「保護者自身が利用するなどして、SNSの仕組みを理解することも大切。学生がトラブルに巻き込まれているようなら保護者から声をかけてほしい」と話している。

大学外

- ▶各都道府県弁護士会
- ▶最寄りの弁護士事務所
- ▶市区町村役所相談窓口
- ▶法テラス(日本司法支援センター)

主な相談窓口

大学内(学生相談室)

弁護士による法律相談(法律相談室) ※事前予約制

☎03-5466-0149

まず学生相談室で状況、希望などを確認。必要に応じて、定期的に本学に弁護士が来校し実施される法律相談室へ紹介する。次回は8月26日予定。

Profile

上尾あおぞら法律事務所 代表弁護士(埼玉弁護士会所属)

川村正衡弁護士(平26卒・122期法)

かわむら・まさひら 平成26年に国学院大学卒業後、立教大学大学院法務研究科を修了。28年に司法試験に合格。弁護士法人てんとうむし法律事務所(埼玉県川口市)、むさしの総合法律事務所(さいたま市)を経て令和2年7月に独立。生まれ育った上尾市で上尾あおぞら法律事務所を開業。【上尾あおぞら法律事務所】〒362-0075 埼玉県上尾市柏座2-6-26 下里第二ビル3階



詳細は本学HP「国学院大学メディア」に掲載



インフォダイジェスト

…在学生 …保護者 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 申し込み 料金 問い合わせ

大学からのお知らせ

7月1日からの大雨で被害に遭われた皆さまへ

7月の梅雨前線に伴う大雨により災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人（保護者等）と相談のうえ下記の大学各窓口までご相談ください。

- 対象地域については本学HPで確認してください。
- 問▶ 学生生活課 (☎03・5466・0145)
 - ▶ たまプラーザ事務課 (☎045・904・7700)
 - ▶ 大学院事務課 (☎03・5466・0142)

夏季休暇中の事務休止日および事務取扱時間について

下記の期間、大学事務を一斉休止します。夏季休暇中の事務取扱時間については、大学HP(QRコード)で確認してください。

7月24日(土)～9月18日(土)の(土)・(日)・(祝)、8月10日(火)～20日(金)

令和4年度 大学院秋季入試

国学院大学大学院では、右表の日程で令和4年度の秋季入試を実施します。詳細は、大学院HPなどで確認を。

問大学院事務課 (☎03・5466・0142)

新型コロナ関連のお知らせ

感染が疑われたら保健室に連絡を

新型コロナウイルス感染症と診断された方、疑いがあると言われた方は、必ず保健室にメールか電話で連絡をしてください。

- ▶ 保健室アドレス hoken@kokugakuin.ac.jp
- ▶ 渋谷TEL (平日9時～17時) ☎03・5466・0148
- ▶ たまプラーザTEL (平日9時～16時30分) ☎045・904・7660

法学会懸賞論文募集

国学院法学会では学生懸賞論文を募集します。論文テーマは法律学、政治学に関するもので、応募条件は、①「日本語」で書かれたもの②応募は1人1編(共同執筆も可)③未発表のもの(ゼミ論で作成した論文も応募可) ※政治専攻のスタディ・ペーパーを除く) などです。応募期限は令和4年1月24日(月)午後3時です。詳細は、大学HP(QRコード)や募集要項を確認を。

問法学会懸賞論文窓口 (☎law-kensyo@kokugakuin.ac.jp)



イベント

オンライン公開講座 「万葉集・源氏物語の生活と文化」

受講場所や時間帯を問わない、ビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」を使用したオンデマンド(録画)配信による「オンライン公開講座」を新設します。初回は「万葉集・源氏物語の生活と文化」をテーマに、上野誠・文学部教授(特別専任)ほかによる「万葉集(全5回)」、竹内正彦・文学部教授ほかによる「源氏物語(全5回)」です。

9月1日(水)～30日(休)配信

- 問万葉集(全5回)、源氏物語(全5回)各1万1000円
- 問申込専用フォーム(QRコード)で8月22日(日)まで受付中
- 問エクステンション事業課 (☎03・5466・0270)



大学院 令和4年度秋季入試日程

研究科	区分	専攻	募集人員	願書受付期間	試験日・合否発送	手続期間	
文学	前期	一般	神道学・宗教学	10名	8月27日(金)～9月9日(休)	【試験日】 10月2日(土) 【合否発送】 10月6日(火)	【一次手続】 10月12日(火)～18日(月) 【二次手続】 令和4年2月25日(金)～3月4日(金)
			文学	15名			
			史学	20名			
		留学生	神道学・宗教学	若干名			
			文学				
			史学				
	学内成績選考	神道学・宗教学					
		文学					
		史学					
	後期	一般	神道学・宗教学	若干名		【試験日】 10月6日(火) 【合否発送】 10月9日(土)	【一次手続】 令和4年2月25日(金)～3月4日(金)
			文学				
			史学				
留学生		神道学・宗教学					
		文学					
		史学					
社会人	神道学・宗教学						
	文学						
	史学						
法学	前期	一般	5名	8月27日(金)～9月9日(休)	【試験日】 9月25日(土) 【合否発送】 9月30日(休)	【一次手続】 10月2日(土)～8日(金) 【二次手続】 令和4年2月25日(金)～3月4日(金)	
		留学生	若干名				
	後期	学内論文選考※学内成績選考※	若干名				
		社会人	若干名				
経済学	前期	一般	5名	8月27日(金)～9月9日(休)	【試験日】 9月25日(土) 【合否発送】 9月30日(休)	【一次手続】 10月2日(土)～8日(金) 【二次手続】 令和4年2月25日(金)～3月4日(金)	
		留学生	若干名				
	後期	学内推薦	若干名				
		社会人	若干名				

※法学研究科の学内論文選考および学内成績選考の秋季試験は、学部4年次在学者に限る

「個性堂」よ、飛んでいけ

「真の個性とは」



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

5月号の「『啐啄同時』の記事について、貴重な感想をいただきました。『子どもからは、おせっかいと言われても、『啐啄』を忘れない親鳥であるべきという趣旨は理解できます。だが、今は個性尊重の時代。社会的には困難なのでは?」個性尊重の子育てについては、誰も異議を挟まないでしょう。しかし、この言葉の真の意味はあまり吟味されておらず、その結果、社会的混乱さえ起こしているように思われます。

小学2年生の担任の先生の話。毎日のように遅刻する子どもの親に電話で注意をしたそうです。しかし、親は、先生に怒鳴り返ししました。「遅刻するのは、子どもの個性の問題。放っておいてくれ」。でも、笑えません。

某大手新聞の論説にも、「今個性の時代なのに、いまだ遅刻点検」という記事が掲載されています。他(者)との違いを「個性」と見る個性観が、そこにはあります。日本では、

「個性」と言えば、「他(者)との違い」という側面が、強調されています。しかし、国際的には、個性とは他との相違の問題ではなく、実は主体性の問題なのです。つまり個性とは、他者の誰とも替えることのできない自分の「よさ(絶対的価値)」に向かって一生懸命頑張ること、なのです。連帯の中で輝く、あるべき自分の「よさ(持ち味)」に向かって、一生懸命頑張った結果としての個性尊重なのです。

客員教授として米国インディアナ大に在任中、教育学部長に指摘されました。「日本人が言っている『個性』とは、単に表面的、表層的な見た目の違いのこと。しかし、個性とは本来、自尊心のこと。これは、『トライ(やってみる)、チャレンジ、ガッツ(根性)』の言葉に代表される。米国では、子どもの社会から、これら

確かに、主体的に一生懸命頑張った結果としての違いを保障しよう。これが個性尊重の子育てです。自分の「よさ」は、かつてのように「品行方正・学業優秀」タイプだけに限定されません。そこは、多様性(ダイバーシティ)なのです。個性尊重の社会とは、个性的に活動した結果の多様性(違い)が保障される社会のことです。先日、優勝が決まった東都大学野球1部リーグ最終戦で、一人一人が个性的に輝きながら躍動する本学硬式野球部員の姿を見せてもらいました。神宮球場に飛び交う個性堂たち。「個性堂よ、飛んでいけ!」心で叫び続けました。



近くて遠い? 遠くて近い? そんな親の気持ちや子どもの気持ちと一緒に考えませんか? 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けしています。読者の感想や新富名誉教授への質問をお待ちしています。

団体・個人の成績

柔道部 = 東京都ジュニア柔道体重別選手権の男子の試合が7月3日、東京武道館（東京都足立区）で行われ、15人が各階級に出場した。男子90kg級では、中村悠太選手（健体2）が準優勝、中村俊太選手（健体1）が3位に入ったほか、同66kg級では羽田野啓太選手（健体1）が準優勝、同73kg級の阿久津友春選手（法1）は3位だった。4人は9月に行われる予定の全日本ジュニア柔道体重別選手権大会に出場する。

陸上競技部 = 第37回U20日本陸上競技選手権大会が6月24～27日、ヤンマースタジアム長居（大阪市）で行われ、U20男子5000mで山本歩夢選手（健体1）が14分23秒78で8位入賞を果たした。同1500mでは三瀨憲人選手（法1）が3分50秒76で10位だった。

ソフトテニス部 = 関東学生ソフトテニス春季リーグ戦が7月10～11日、千葉県白子町で行われた。同部は所属する男子1部で3勝2敗、勝ち点3で6校中3位。女子は2部で4勝1敗、勝ち点4で6校中2位だった。2度の延期を乗り越えて開催された今季は、入れ替え戦を行わず、昇格、降格も生じない特別ルールとなった。

卓球部 = 第90回全日本大学総合卓球選手権大会団体の部が7月1～4日、島津アリーナ京都（京都市）で行われた。予選リーグを2連勝で突破した女子は、決勝トーナメント1、2回戦も快勝。準々決勝では関東学生1部所属の東京富士大学に2-3で競り負け、6位入賞となった。同大会での準々決勝進出は平成30年度以来3年ぶり。男子は棄権した。

陸上競技部

3年ぶりの予選会2位通過 —全日本大学駅伝

大学駅伝日本一を決める秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会の関東地区予選会が6月19日、相模原ギオンスタジアム（神奈川県相模原市）で行われた。前回大会9位でシード権を逃し、3年ぶりの予選会出場となった国学院大学陸上競技部は、出場した8選手が積極的に上位に挑む走りを見せ、2位で7年連続の本戦出場を決めた。

予選は各校2人ずつ4組に分かれ計8人が1万mを走り、合計タイム上位7校が本戦出場となる。レースは時折風が強く吹く中、午後5時にスタート。1組目に出場した中西大翔選手（健体3）は600m付近で飛び出すと、後続と大きな差をつけて独走＝写真。2位以下に10秒以上の差をつけ29分21秒70でゴールした。3組目ではルーキーの平林清澄選手（経営1）が8000m過ぎにスパート。ゴール目前に後続にかわされるも3位（29分14秒55）に入る活躍をみせた。

1組目で1位に入りチームに勢いをつけた中西選手はレース後のインタビューで、「もう少しタイム差を稼いだかったが、トップでゴールすることが自分の役目だったのでうれしい。故障明けで不安もあったが、払拭できる走りができた」と自信を見せた。

本戦は11月7日、愛知・熱田神宮から三重・伊勢神宮までの全8区間、全106.8kmで行われる。



©月刊陸上競技

総合結果

順位	大学名	総合タイム	順位	大学名	総合タイム
1	東京国際大学	3:56:39	7	日本体育大学	3:57:47
2	国学院大学	3:56:47	以上、全日本大学駅伝出場権獲得		
3	法政大学	3:57:14	8	駿河台大学	3:58:16
4	拓殖大学	3:57:17	9	国土館大学	3:58:51
5	中央大学	3:57:17	10	山梨学院大学	3:59:07
6	中央学院大学	3:57:23	以下省略		



私が受け持つ授業では落語の歴史などにはじまり、落語から見た江戸文化、講談や浪曲と落語の違いなど、できるだけ分かりやすく多くの切り口で説明することを心掛けています。こうした授業で得た知識をベースに能、狂言、歌舞伎など古典芸能や伝統文化に一通り触れ、難しい言葉に突き当たったら、その意味や語源の探求などへと掘り下げていってほしい。

さんゆうてい・ゆうきち

本名・能條正美（のうじょう・まさみ）

国学院大学では日本文学を学び、卒業後に三遊亭遊三師匠に弟子入り。遊吉として昭和61年に二ツ目、平成6年に真打に昇進。22年から本学文学部兼任講師。公益社団法人・落語芸術協会理事。7月21日から30日まで新宿末広亭7月下席に出演予定。

に、自身の想像力を育むことにも繋がっていく。物事を客観的に見る鍛錬にもなるだろう。多くの伝統芸能に触れ、結果として落語が最も面白いと感じてくれれば私としては一番うれしいことだ。日本文化の研究が充実している本学の学生なら、なおさらこの伝統文化体験にトライしてもらいたい。（談）

若手から真打まで落語家が代わる代わる高座に上がり、演目（ネタ）を披露する寄席は、落語家とお客さんが一体となり笑いの空間を作り上げる。古典落語ではよく、欲を出して失敗してしまったとか、庶民の

滑稽さをネタに観客を笑いに包むが、古典であっても古臭さをまったく感じさせないのが落語の特筆すべき点だ。旬な話題を盛り込むと、あつという間にやたら古臭く感じてしまう。落語は究極のマンネリと

も言われる。廃れることなく根強い人気を博しているのには、いくつもの楽しみ方があるからだ。パロディの原作を探るのも、その一つだろう。落語では話の一部分が日本の古典芸能や古典文学などのパロディになっていることがしばしばある。だから古典芸能などの知識があれば、「あーっ、聞いた噺の原作はあの古典だな」といった思いを巡らすこともできる。より深い楽しみ方ができるというわけだ。そこで古典芸能など伝統文化に広く触れることを薦めたい。



授業では落語を実演することも

先輩に 聴く

今こそ伝統文化体験のすすめ 落語は笑いと想像力の宝庫

落語家 三遊亭遊吉師匠（昭57卒・90期文）

K:DNA——創立139年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

硬式野球部

東都優勝導いた 4年生の団結、結束力

「4年生がチームを引っ張ってくれた」。11年ぶりに東都大学野球1部リーグで優勝を決めた直後の記者会見で、福永奨主将（健体4）は胸を張った。平成22年秋の初優勝以来、幾度となく優勝争いを演じながらも先輩たちが手にできなかった優勝旗。その大きな壁をどのように乗り越えてきたのか。選手、監督の声から答えを探る。

「11年ぶりの東都優勝はうれしい。昨年秋の新チーム立ち上げ当初は、優勝できるかわからなかった」と福永主将は振り返る。秋のリーグを3位で終え、新チームがスタートした昨年11月のチーム状況について「最悪だった」「入れ替え戦も意識した」と4年生は口をそろえた。

「合宿所での生活や、周囲への気遣い、心配りはよくなかった」と話す高山匠主務（健体4）。選手たちの意識を変えようと、川岸正興学生コーチ（経4）とチームの方向性を話し合ってきた。「どこか下級生任せの部分があった」（川岸学生コーチ）という4年生を中心に部員たちは「しつこいくらい」



優勝の原動力となった4年生たち



試合中、大きな声で指示が飛ぶ国学院ベンチ（東都大学野球春季リーグ・亜細亜大1回戦）

（高山主務）ミーティングを重ねてきた。鳥山泰孝監督はそうした学生たちを「福永、川岸、高山の3本の柱が言葉と姿勢でチームの方向性を一つにしてくれた。個性とチームの組織力が調和してきた」とみている。

成長の証しは、リーグ戦のベンチからも感じられた。「一番声を出してます」と断言する山本ダンテ武蔵選手（経4）や川岸学生コーチを中心に活気ある声が、グラウンドの選手たちとの一体感を生んだ。守備の要としてキャッチャーマスクをかぶる福永主将も「試合の状況や監督の考えることを整理して選手に伝えている。足りない部分は4年生がカバーしてくれる」と信頼を寄せ、チームの結束が勝利

の要因だったと明かす。

春秋連覇を目指す秋季リーグ、そして果たせなかった日本一へ。「このままでは終われない」と話す福永主将は「もう一度4年生の団結、結束力が必要」と決意を新たにする。鳥山監督は「戦国東都を制することは偶然ではない。心技体の基礎力が備わってこそ」と話す。その上で「これから、より現実味をもって日本一に挑める。リーグ優勝を喜ばなくなるチームにしたい」と選手たちの飛躍に力を込めた。

取材記事の詳細は
国学院大学メディアに公開



情報をお寄せください

「部員の人数が足りず、団体戦に参加できない」「人数がそろわなくて演奏ができない」など少数で困難を抱えながら活動を続ける大学公認部会の情報をお寄せください。今後不定期連載で紹介していきます（紙面の都合などにより紹介できない場合があります）。

【問】広報課（☎kouho@kokugakuin.ac.jp）

少林寺拳法部

部員の半数は4年生の危機 鍛錬で身を守り 心を磨く



少林寺拳法部

練習は、渋谷キャンパスで週3日（水・金・土）。18時から21時まで。基本動作の突きや蹴りの練習、単独演武の練習のほか、防具をつけて突きや蹴りの練習をする。男女ともに部員を募集中。

▶ Twitter : @kokudaishorinji

▶ Instagram : @kokudaishorinji

渋谷キャンパスの多目的フロア。広々とした畳敷きの道場で3人の少林寺拳法部員が稽古が続いていた。先頭に立って声を出す副将の門田あみさん（法3）は「人数が少ないので練習に活気や迫力が欠ける」と話す。部員は9人だが5人が4年生と半数以上を占める。3年生が2人、1・2年生は1人ずつという現状に「来年が心配」と門田さん。

少林寺拳法は、昭和22年に日本国内で始まった武道だ。「空手道と合気道のいいとこどり」（門田さん）と言うように、突きや蹴りなどの剛法と投げ技・固め技などの柔法などからなる。中学生の時に少林寺拳法部の顧問だった恩師に誘われて始めたという西館幸祐さん（法2）は、部内唯一の2年生。「身長や体格差があっても、小柄な人が相手を倒すことができる。運動経験や体力がなくても続けられれば心身が鍛えられている。おかげで受験も乗り越えら

れた」と鍛錬の成果を口にする。

部員たちのモチベーションの一つは、昇級、昇段だ。初段の門田さんは「卒業までに二段になりたい」と話す。昇級・昇段試験では、受験する級や段によって課される演武が違うため、部員たちの練習メニューも変わってくる。「2人一組の練習が多いが、人数が少ないので個々の課題に合った練習がなかなか一度にできない」（門田さん）と試行錯誤が続く。

部員は、大学入学後に少林寺拳法を始めた人が半数だ。「少林寺拳法は護身術。高校では文化部だったが体を鍛えたい、武道をやってみたいと入部する人もいる。女性のなかには、自分で自分の身を守りたいという理由で入る人が多い」と話す門田さんは「女子学生の仲間を増やしたい」と目を輝かせた。